

お家で挑戦！はじめてのビオトープづくり ～生きものを呼んでみませんか～

お気に入りのビオトープをつくってみませんか？

狛江市では、ご自宅の庭先やベランダで気軽に取り組めるビオトープの作り方やコツを紹介する「お家で挑戦！はじめてのビオトープづくり～生きものを呼んでみませんか～」の冊子を発行しています。

「秋の生きものをビオトープに呼んでみたい！」とお考えの方は、ぜひご活用ください。市役所5階環境政策課の窓口で配布しております。



【ビオトープって何だろう？】

ビオトープとは自然の中に広がる「生きものの暮らす場所」という意味で、草地や森・池・川・海など、大小かわらず生きものの暮らしを支える場所はみんな「ビオトープ」と言います。

狛江市では、宅地化を背景に樹林地や農地の緩やかな減少が続いています。ちょっとした空間にビオトープをつくることは生物多様性を守ることにもつながります。

★市民のみなさんが作ったビオトープコーナー★



タイトル：フラワータワー
特徴：鳥や虫が休めるように、西河原公園で拾った小枝や葉っぱをいれました。
発見した生きもの：てんとう虫、ダンゴムシ



タイトル：昆虫のおうち
特徴：花はチョウやミツバチに、石と枯れ葉は爬虫類の隠れ家として作ったよ！たくさん遊びに来てくれるといいな！
発見した生きもの：チョウとアブ



タイトル：トンボとまれ
特徴：トンボがとまれるように長い草葉を植えました。
発見した生きもの：チョウ



タイトル：お花がいっぱい
特徴：カラフルでたくさんの種類の花を植えました。
発見した生きもの：チョウ



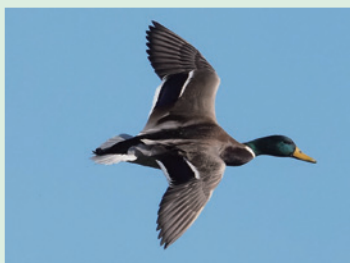
「冬鳥」を観察しよう！！

秋から冬にかけて、越冬のために鳥たちが北の国から日本へ渡って来ます。山地から平地の身近な環境に移動して来るので、狛江市でも多くの種類の鳥たちを見ることができます。このような鳥たちを「冬鳥」と言います。

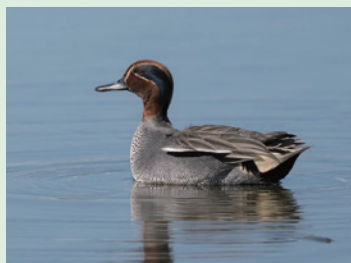
鳥と言えば私たちの身の回りに生息する身近な生きものですが、実は「じっくりと観察するのは難しい生きもの」でもあります。ただし、秋から冬の時期は、鳥の姿を隠す樹木の葉が落ちたり、鳥が地面に落ちた木の実をついばむなど低い位置で行動することが多いため、冬の季節は野鳥観察の難易度が少しだけ下がります。自然溢れる多摩川や野川で冬鳥を観察してみませんか？

カモには非常にたくさんの種類があります。また、日本にいるカモのほとんどが冬鳥です。多摩川では二ヶ領宿河原堰の付近、野川では河川全域で多く見ることが出来ます。狛江市内では何種類のカモを見つけることができるでしょうか。下の写真と特徴を参考に、川辺でカモの観察をしてみたいはいかがですか。もしかしたらたくさんのカモが見つかるカモ🦆

狛江市では、毎年1月～2月にかけて冬鳥の観察会を行っています。冬の多摩川や野川で双眼鏡をのぞいて冬鳥を探してみませんか。詳細は下記までお問い合わせください。



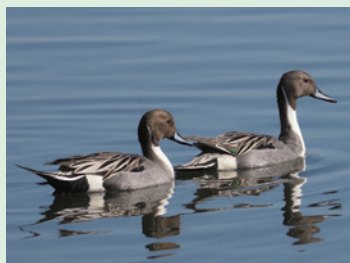
マガモ
 カモの仲間の代表種。10月ごろから飛来してくる。オスは頭が光沢のある深緑色、首の白い輪と黄色いくちばしが特徴。オスは「グエーグエツグエツ」と大きな声で鳴く。全長約60cm。



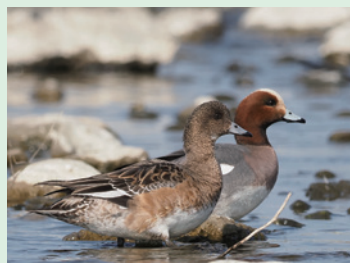
コガモ
 カモ類の多くはメスの方が地味なので、オスの色模様で判断するとわかりやすい。オスは茶色の頭に白いラインの入った顔が特徴。日本で一番小さなカモ。全長約40cm。



オカヨシガモ
 オスは全体が落ち着いた色模様で尾羽が黒く、羽根の一部が白い。オス・メスとも足が黄色っぽい。頭を水に突っ込んで逆立ちをしながら水中の藻類などを採食する。全長約50cm。



オナガガモ
 オスは頭が黒っぽく胸は白。名前のおり尾が長いのが特徴。メスは全身茶色で細かい模様がある。長い尾を水面から出して逆立ちをしていたら、オナガガモと思って間違いはない。



ヒドリガモ
 アヒルより少し小型。オスは緋色の顔に黄色い額、胴体は灰色。メスは赤味を帯びている。「ピューイー」というかわいい口笛に似た声で鳴く。全長約50cm。

写真提供：狛江探鳥会